

てびねり

十一月

平成20年11月1日発行
株式会社ゆしま陶助

国立西洋美術館

十月号のこの欄でご紹介した東京文化会館の隣に建っているのが、今、ユネスコの世界遺産登録を申請している「国立西洋美術館」です。実はこの「国立西洋美術館」はフランスの世界的に有名な建築家ル・コルビュジエの建築です。今、フランス政府が中心になって、世界に点在するル・コルビュジエの作品（建築物）をまとめて、ル・コルビュジエの建築と都市計画」と銘打って世界遺産に登録の準備を進めています。その世界に点在する作品（建物）の一つに上野の「国立西洋美術館」も入っていたのです。



国立西洋美術館
中庭にある
「カレールの市民」
ロダン作のレプリカ

来年は「国立西洋美術館」は50周年を迎えますが、国がこの建物を昨年12月に突然、国の重要文化財に指定したのは、もちろんフランスからル・コルビュジエの世界遺産登録への共同申請の依頼があったからです。それまでは日本でのル・コルビュジエの建物の評価はあまり高くなかったようです。

かなり前になりますが、「国立西洋美術館」が構造上使いにくいので、一部改装しようという声が上がったそうですが、もし彼の評価が高かったら、間違っても改装のような話しは出なかったことと思います。

来年の国立西洋美術館50周年には「ルーヴル美術館展」(2月29日〜6月14日)が行われ、レンブラント・フェルメール・ルーベンス・ベラスケスなどルーヴル美術館を代表する画家の作品が出品されることになっています。ルーヴル美術館に行かなくとも、上野の山で鑑賞できるのはうれしい限りです。楽しみに待ちたいと思います。(記 佐藤)

我が家のうつわ達

今回お休みさせていただき

一階に移った
教室の制作風景



皆さん大きな作品を作っていますね。左の写真は奥から入り口に向かって撮影しました。



奥にロクロがあります。

◆今月の制作風景

◆片口鉢を見本に...



□渋谷洋子さん

見本の片口鉢はロクロ作り。それをてびねりで丁寧につけています。今、削りに全力投球。



渋谷さんの作品「竹の子皿」。黄瀬戸の還元焼成で深みが増しました。(28日窯出し)

◆桜の花びら...



□山口和江さん

石膏の型で作った「豆皿」に和紙で型抜きをした桜の花びらを一つ一つ染付をしています。

◆小さめの水盤を...



□遠山つる子さん

この前作った水盤が少し大きかったので、今度は少し小さめの水盤をお作りになっています。

◆再度灰皿に...



□矢萩綾子さん

裏面のピースを入れて焼いた灰皿が気に入ったのでもう一つ作ります。現在削りの作業中。

◆二つ作りしました...



□奥田智美さん

特大サイズの金魚鉢を、一つはプレゼント用、もう一つは自分用に、がんばって二つ作ってしまいました。

◆今回は小さなもの...



□高石昌和さん

急須に花の模様を入れていきます。小さな柄なので弁柄での線描きも大変です。

◆初級コースご紹介



□中島豊子さん

「みなさん、よろしくお願ひいたします」



□中山弘子さん

「私も初級コース入会しました。よろしくお願ひいたします」

□新コーナー

私が勧める美味しい店

今月から会員の皆さんが推薦する美味しい店をこのコーナーでご紹介します。

食事だけでなく、お酒やコーヒーの美味しい店、取って置きの店、隠れた名店、私だけが楽しんでいる店などご紹介ください。第1回は、美味しいものに目がない「園部正樹講師」です。

私が勧める美味しい店

推薦者 園部正樹講師

釜揚げうどん専門店

根津 釜竹

お品書きには「釜揚げうどん」とさるうどん だけですが、「これが本当のうどんです」と皆さんにお知らせしたいほど美味しいお店です。注文してから仕込むので、時間はかかりますが、わたしは期待を裏切られた事がありません。私の一押しのお店です。



明治時代の石造りの蔵を利用した
根津<釜竹>

文京区根津2-14-18

地下鉄千代田線「根津駅」

2番出口 徒歩3分

当教室から歩いて十五分程です

電話03-5815-4675

定休日 月曜日

時間 十一時半〜十四時

十七時半〜二十一時

日・祝十一時半〜十四時

手打ちの為、うどんが無くなり次第閉店になります。

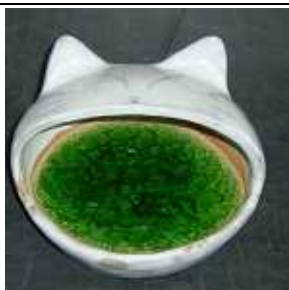
予約をして行くのがいいです。

お酒の種類が多く、つまみもそろっています。

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□一色まりさん 猫の香炉



口を大きく開けたネコの香炉です。中はカナダドライの瓶を入れて高温で焼いたので、きれいなグリーンの色が鮮やかに出ました。

□氣賀澤政江さん 花器



厚みはあまりない楕円形の花器です。ピンク釉の下に呉須で草花の絵付けをしているのですが、見にくいですが、淡色の素敵な花器が出来上がりました。

□菅野満雄さん 傘立て



とても大きな傘立てです。草むらうさが飛び跳ねている様子を上手に切り抜いています。落ち着いた色に仕上げたので、置く場所にマッチしそうです。裏側に「菅野」と名前が入っています。

□石黒郁子さん ふた物



石黒さんの本科に入って初めての作品です。どんぐりのような可愛い形の蓋物で、中は白萩、外はビードロ、ふたは飴釉でアクセントを付けました。



□岡部厚子さん <深鉢>
大きさも手ごろな二つの深鉢です。荒く削った表面に白マットがピタリでした。縁のルリイラボ釉がポイントです。

□小野寺修さん 急須



赤土に黒化粧して、辰砂を刷毛で塗りました。ふたは、写真ではよく見えませんが、織部でアクセントを付けました。

□渡邊美知子さん 香炉



新しい釉薬「黒マット」を使った香炉です。陶器というよりも、鉄製の香炉を思わせる作品です。



□近藤真弓さん <飯碗>
少し小振りな可愛いご飯茶碗です。透明釉を掛け、一つは鉄赤、もう一つは織部釉で仕上げました。おしゃれな2点です。

□柿沼ひろみさん ピアタン



手の大きさに合わせた色違いのすっきりしたピアタン。黒マットに白マット。全体に白マットに線彫り。良い出来上がりです。

□大塚美智江さん 花器



きれいな直線が出ました。黄瀬戸釉を全体に掛け、上部に辰砂釉を掛けた花器です。上手く焼けた上質の花器の誕生です。

□矢萩綾子さん 灰皿



女性らしい色使いの灰皿です。ガラスの部分はカラービーズを入れて焼き素敵な色に…。

□五十君ひろ子さん 楕円鉢



普段使いのとても便利な楕円鉢です。色も縁取りは呉須を、全体には白萩を掛け、還元焼成しました。

講演「神田陽司師匠」の第2回史跡めぐり

【篤姫の墓所を訪ねて】

今回は十月二日午後、上野公園で待ち合せて寛永寺の「篤姫の墓所」と十五代將軍徳川慶喜が明治に移る激動の時期に塾居した「葵の間」を特別拝観しました。下段の写真は葵の間で説明を聞く会員の皆さん。下の段に続きます。

見た事・聞いた事・読んだ事

浅草寺の大わらじ

浅草雷門をくぐり、本堂に向かって真っ直ぐ進むと次の門は宝蔵門です。この門の浅草寺側の両サイドに巨大な「大わらじ」があるのは皆さんご存知だと思います。この「大わらじ」はほぼ十年毎に架け替えられていますが、今年がその架け替えの年に当たります。

この「大わらじ」は、江戸時代から浅草寺に掲げられていたと思われている人が多いと思いますが、意外に歴史は浅く、山形県村山市楯岡荒町の住民のみなさんが六七年前の昭和十六年から十年ごとに奉納しているものです。この昭和十六年は太平洋戦争が始まった年で、護国の象徴として奉納したのが始まりと、地元の河北新報が伝えています。



浅草寺の新旧「大わらじ」

新

この「大わらじ」長さ4.5m、幅1.5mもあり、大わらじ専用の田んぼで育てた稲わらを使い作り上げたもので、鉄の芯を入れると重さが5百kgあります。

浅草寺への奉納は、先月十月二十六日（日曜日）に行われ、十年振りに第七代の真新しい「大わらじ」が架け替えられ、マスコミにも大きく取り上げられました。大わらじのそばの説明書きには「この様な大きなわらじを履く者がこの寺を守っているのかと思ひ、鬼が逃げに行く」と書いてあるのはお愛嬌です。

十一月といえは浅草は西の市（とりのいち）があり、真新しい「大わらじ」を目にする人も多いことと思います。

今年の西の市は三の西（十一月五日・十七日・二十九日）までありますから、言い伝えでは火事が多いということになります。皆さんも浅草に行く機会がありましたら、奉納された真新しい「大わらじ」を見、そして威勢の良い掛け声で縁起物の熊手を売る「西の市」に繰り出して見ればいかがでしょうか。（記 佐藤）

新しい「大わらじ」は十月二十六日夜撮影

会員募集!

只今「神田陽司師匠を応援する会」の会員を募集中! 会費 1ヶ月 千円

一年に数回、神田師匠の案内で都内近郊の史跡めぐりをしています。史跡めぐりのあとは、師匠を囲んで美味しい店の食べ歩き! 楽しい会です。詳しくは一階事務局でお聞き下さい。

